事例 10　公民館を核とした家庭教育学級の支援

市町・公民館等	那須塩原市　ハロープラザ
事業	家庭教育学級

1　事業を始めたきっかけ

ハロープラザでは、塩原町の頃から保育園の家庭教育学級に関わり続けている。小・中学校に関わるのは市町村合併して那須塩原市になってからで、予算等も確保され、家庭教育学級及び学社連携融合推進事業と併せて、ハロープラザ管内の各小・中学校の支援にあたっている。

結果として保育園から中学校までの家庭教育学級に社会教育指導員が関わることで、切れ目のない家庭教育支援が展開でき、家庭教育学級の充実を図ることができるようになった。また、公民館が核となることで、地域で支える家庭教育支援につながっている。

2　活動内容

社会教育指導員がハロープラザ管内の保育園から中学校までの（保育園１、小学校３、中学校１）家庭教育学級の企画・運営を支援している。支援の流れは、以下のとおりである。

①年度初めに、各学校の家庭教育主事※を集め、家庭教育学級及び学社連携融合推進事業についての会議を公民館が主催する。

②会議以降、各学校の役員会に社会教育指導員が参加して、家庭教育学級の企画・運営について話合いを行う。その際、家庭教育学級の講座の中に、市全体で行う教育講演会や公民館主催で行う子育てセミナーや講演会を組み込んでいく。

③各学校の実態に合わせた講座を実施する。

※那須塩原市では、教頭を家庭教育主事として任命している。これは、家庭教育主事を設置することで学校側の窓口を明確にし、家庭教育支援の充実を図るためである。

＜活動のポイント＞

・各学校の役員会等に足を運び相談にのることで、保護者（役員）の思いや学校の思いを生かし、内容を決めている。そうすることによって、学校の実態に合った家庭教育学級を実施することができる。
・視察研修では、バスの移動時間を使って親学習プログラムを実施している。
・各学校の講座の中に公民館が主催する共通の講座を設定することで、学校間の交流を生み出している。
・開催については、チラシ等に頼らず、役員さんたちの口コミを大切にする。

子育てセミナー「子どもの食育・大人の食育・地域の食育
～今、子どもに伝えたい食のこと～」

ものづくり講座「風呂敷でちょい楽生活」

親子ものづくり講座「親子でパン作り体験」

親学習プログラム

「子どものいいところをのばそう」

3　成果と課題

〇成果

・継続することで、参加者数も一定の数を確保している。父親の参加率も高い。

・社会教育指導員が一人で全ての学校や保育園を担当することは負担も大きいが、公民館と各学校との信頼関係を深めている。また、公民館区には３つの小学校があるが、共通の講座等で保護者同士が交流することで、中学校での保護者同士のつながりを円滑することに役立っている。

・公民館が関わることで、講師情報の提供や視察研修の企画等、学校の負担を軽くしながらも、内容の充実を図っている。

〇課題

・保育園から小学校へと、だんだん家庭教育学級の活動が活発になってくるのに、中学校になると活動が停滞してしまう。（発展させたい。中学校には、家庭教育学級の役員がいない。）

・学校の思いと保護者の思いにはギャップがあり、対応が難しい。

4　その他

〇今後の展開

・小規模校ばかりで、児童数自体も減少している。参加者数を拡大させたい。そこで、家庭教育学級にずっと関わってきた保護者からは、中学卒業時には「子育てが終わってしまう。家庭教育学級に参加できなくなるのは寂しい」という声も聞こえてくる。これからは、公民館事業と共催するなどして、地域の人も家庭教育学級に参加できるようにしていったらどうか。そうすることによって、子育て世代と地域の人とのつながりもできてくるのではないかと考えている。

（調査協力：那須塩原市ハロープラザ　館長　松本仁、　社会教育指導員　赤沢さゆり）